



MEMBER 01

ウチ ダイ セイ 【所属】
医療法人敬英会 介護老人保健施設
グリーンガーデン橋本

理学療法士。リハビリを通じて寝たきりの方や患者の身体能力向上をサポートしている。趣味はドライブ。自然豊かな環境を求めて橋本市に定住・就職を決意した。



MEMBER 02

タケ ウチ ミ サ 【所属】
株式会社 OFFICE ZERO

損保ジャパン代理店の事務。元保育士。子育てのため、広島生活を経て和歌山へ帰郷。和歌山の地域の人々から子供を見守る姿勢や人柄に魅力を感じている。



MEMBER 03

ウジ オカ ユウ スケ 【所属】
日進化学株式会社

シャンプーや化粧水などを製造する液充填オペレーター。職場は地元出身者が多く社内の繋がりを大切にしている。趣味はバイクやゴルフ。



MEMBER 04

ツジ コウ スケ 【所属】
和歌山県農業協同組合

JA 橋本支店勤務。貯金集めや地域住民の困り事を助ける「外回り」が主な業務。東京から帰郷し、「地域を盛り上げたい」という地元愛を持つ。



MEMBER 05

コ バヤシ ショウ 【所属】
NTN 株式会社

会計部門で原価計算を担当。自身が手掛ける製品が様々な機械に使われることにやりがいを感じる。休日はゲームや釣りを楽しんでいる。

MODERATOR 司会者



モリ オカ マサ カツ
森岡 雅勝

【所属】 株式会社 ヒトノハ

株式会社ヒトノハのクリエイティブディレクター。座談会の企画と司会を担当。

仕事と生活のリアルを語る

橋本市で働く若手5名が、仕事や暮らしを本音で語る座談会を開催！若手ならではの地域目線のリアルな声は、未来を担う高校生や大学生にとっても役立つヒントが満載です。

PART 01

なぜ、橋本で働くのか？

司会 本日はお集まりいただきありがとうございます。皆さんは様々な業種で活躍されていますが、まず、なぜこの橋本市周辺で働くことを選んだのか、その理由からお聞かせいただけますか？

小林 僕ももともと和歌山県内で働こうと決めていました。企業を探る中で、仕事内容、有給休暇、給料といった条件がはっきりしている今の会社に出会いました。たまたま働く

場所が橋本市だった、という形ですね。家から30分くらいで通える距離なのも決め手でした。

氏岡 僕も小林さんと似ています。同じ会社の事業所がかつらぎ町にもあったのですが、橋本工場の方が設備が新しくなったので、こちらを選びました。どうせなら新しい機械に触れてみたい、という気持ちがありましたね。やっぱり働く環境は大事ですから。

司会 お二人は、働く上での条件や環境を重視して橋本市を選ばれたんですね。一方で、一度県外に出てから戻ってこられた方もいらっしゃると思います。辻さんはいかがですか？

辻 僕は地元から奈良県の高校に通い、大学からは東京に出て、そのまま東京で働いていました。でも、離れてみて初めて地元の魅力に気づいたんです。実家にいると親のありがたみが分からないのと同じで(笑)。「和歌山に帰りたいな」と思っていた時に、祖母が元々農協の職員だったこともあり、身近に感じていた農協で働くことを決めました。橋本市は大阪へのアクセスも良いのに、そのポテンシャルを活かしきれていない部分があると感じています。だからこそ、地域に寄り添う仕事を通して、この町を盛り上げたいという気持ちがありました。

TALK



竹内 私も辻さんと同じで、Uターン組です。以前は広島に住んでいたんですが、子どもができた時に「ここで育てるのは少し違うかな」と感じたんです。私はずっと和歌山で育ったので、近所の人も「大きくなったね」と声をかけてくれるような、温かい環境で子育てをしたいと思いました。都会の便利さも魅力ですが、それ以上に人の繋がりを大切にしたいです。

司会 地元の人々の温かさが決め手になったんですね。内田さんはいかがですか？

内田 僕は自然豊かな場所が好きで、妻ともそういう場所に家を買おうかという話をしていて、橋本市に良い物件が見つかったんです。引っ越しをして、先に妻が今の職場に就職し、「自然豊かで良い職場だよ」と聞いたのがきっかけで、僕もそこで働くことになりました。暮らしの場所を先に決めて、そこから仕事を選んだ形ですね。

PART 02

仕事のやりがいと日々の奮闘

司会 次に、皆さんの具体的なお仕事内容と、その中で感じる「やりがい」について教えてください。

小林 僕たちが作っているベアリングは、自動車をはじめ、本当に色々な機械に使われています。街中で車を見かけると、「あれにも

自分が作った部品が使われているのかもしれない」と思うことがあります。社会の基盤を文字通り「下から支えている」という実感があって、それが大きな誇りになっていますね。

氏岡 僕も製造業なので、よく分かります。僕の会社ではシャンプーや化粧水を作っていて、ドラッグストアに行けば自社で関わった製品が並んでいます。みんなが毎日使うような身近なものを作っている、もし自分たちの仕事が無かったらみんな困るだろうな、と思いつつ日々頑張っています(笑)。



司会 自分たちの仕事が社会にどう役立っているかを感じられるのは、大きなモチベーションになりますね。医療やサービス業の分野ではいかがでしょうか？

内田 僕は理学療法士として、寝たきりの方や、体のどこかに痛みを抱えて歩くのが困難な方のリハビリを担当しています。僕たちの仕事を通して、昨日までできなかった動作が一つでもできるようになった時、患者さんの回復を間近で見られた時に、一番のやりがいを感じます。

竹内 私の仕事は保険の代理店なので、何かあった時、お客様の「いざ」という時に役立っている仕事です。「ありがとう」と言ってもらえた時は、やはり嬉しいですね。でも、私がこの会社の好きなのところを一番に挙げるなら、「人の良さ」です。社員は7人ほどの小さな会社ですが、社長も同僚も本当に温かくて、年齢もバラバラなのに、この前はみんな

なでバーベキューをしてすごく盛り上がりました。私は元々保育士で、事務の仕事がしたくてこの業界に飛び込んだので、保険の知識はゼロからのスタートでした。でも、周りの皆さんが優しく教えてくれて、毎日楽しく働いています。

辻 人の温かさはすごく感じますね。仕事で地域の方のお宅を訪問すると、「ご飯食べていき」と声をかけていただいて、冷麺をご馳走になったり(笑)。そういう人のぬくもりが本当に心に沁みます。この辺りの人は、言葉は少し荒っぽいかもかもしれませんが、心はすごく温かい。いい意味で田舎らしい、きっちりしすぎず、だらけすぎず、ほどよい人との距離感が魅力だと思います。人と出会えたことが、ここで働いて一番良かったことですね。

PART 03

橋本での暮らしと休日の過ごし方

司会 皆さんの充実した仕事ぶりが伝わってきます。では、オフの日にはどのように過ごしているのでしょうか？橋本市での暮らしの魅力についても教えてください。

小林 橋本の魅力は、なんといってもアクセスの良さですね。大阪にも奈良にもすぐ行けるので、休日に遊びに行くのにも便利です。僕はゲームをしたり、車で1時間くらいかけて市内(和歌山市)まで釣りに行ったりしています。都会すぎず、かといって不便でもない、このバランスが気に入っています。

内田 アクセスの良さは感じますね。僕はドライブが趣味で、いろんなところへ出かけます。大阪で働いている人も、家賃などを考えると、橋本に住んで通勤するという選択肢はすごく良いと思います。



辻 僕は最近ゴルフハマっていて、和歌山や奈良のゴルフ場によく行きます。高校が奈良だったので、友達に会いに天理までラーメンを食べに行くこともありますね(笑)。橋本は、アクティブに動きたい人にとってもすごく便利な場所だと思います。

REAL VOICES OF WORK & LIFE IN HASHIMOTO

会場

RINC HASHIMOTO 紀伊見荘

紀伊見荘内にある、仕事や研修が
でき、温泉で疲れも癒せるイノベー
ション拠点です。



司会 都会へのアクセスの良さが、休日の過ごし方の幅を広げているんですね。一方で、地域ならではの楽しみ方もあるかと思えます。

竹内 私は子どもが公園が大好きなので、休日は「公園めぐり」に連れて行かれます(笑)。橋本市内にある杉村公園は遊具が新しくなって、子どもも大喜びです。

氏岡 うちも娘がいるのでよく分かります。公園で一緒に遊んだり、一人の時は、バイクや車をいじったりして過ごしていますね。

司会 話を聞いていると、皆さん、地域の「人の温かさ」に触れる機会が多いようですね。

竹内 そうなんです。和歌山の人はものをあげる文化があって(笑)。お客さんから、みかんや柿はもちろん、マグロのブロックをいただいたこともあります。

氏岡 中には「これ、もう乗らへんから」って原付をくれようとする人もいますよ(笑)。使わないものなら、誰かに役立ててほしいって気持ち強いかもしれません。

辻 まさに「田舎あるある」ですよ。でも、そういうコミュニケーションが、この地域の魅力なんだと思います。

PART 04

これからの橋本市と、 未来を担う君たちへ

司会 それでは最後に、皆さんが思う「これからの橋本市」の姿と、将来この地域で働くかもしれない高校生・大学生の皆さんへのメッセージをお願いします。

小林 僕は、今の橋本市がすごくバランスが取れていて好きです。この「ちょうどいい」感じを保ってほしいなと思います。皆さんへのメッセージとしては、社会に出るとコミュニケーション能力が本当に大事になります。学生のうちに、自分の学校だけでなく、色々な人と話す機会を作っておくと、将来絶対に役立つはずですよ。

内田 僕からのアドバイスは、一度はアルバイトを経験してほしい、ということです。特にお客さんと接する仕事は、社会人としてのマナーや言葉遣いを学ぶ絶好の機会です。僕も元々は話すのが得意ではありませんでしたが、アルバイトを通して人と話すことに慣れることができました。その経験が、今の理学療法士という仕事にも活かしています。

氏岡 僕が高校生の頃は、まだ「これをやりたい」という明確な目標はありませんでした。だから、皆さんも焦る必要はないと思います。まずは興味を持ったことを「とりあえずやってみる」という姿勢が大事です。そこから、



本当に自分のやりたいことが見つかるかもしれません。

竹内 私が伝えたいのは、「人との繋がりを大切にしてほしい」ということです。私が保育士になったのも、今の会社で働くことになったのも、すべて人との縁がきっかけでした。友達や家族、先生など、周りの人を大切にすることが、自分の未来を切り拓く力になります。そして、親孝行も忘れないでくださいね。

辻 僕も皆さんの意見に共感します。若い頃は何をしてもいい、どんどん挑戦して失敗してほしいです。その上で、少しでも地元のことを目に向けてみてほしい。今週末にも「まっせ・はしもと～柿まつり2025～」という大きなイベントがあります。そういう地域の催しに参加して、「橋本といえば柿だな」とか、地元の魅力を肌で感じてみる。そうやって、この街について考える時間を1日でも作ってくれたら、先輩としてすごく嬉しいです。



セージ、すべてが胸に響きました。この対談が、高校生・大学生の皆さんが自分の未来を考える上での、一つの道しるべになることを願っています。

司会 皆さん、本日は貴重なお話を本当にありがとうございました。仕事への誇り、地元への愛情、そして後輩への温かいメッ

